

五月（皐月）と言えば、新緑の緑が目にもまぶしく、すがすがしい季節のはずですが、先日には記録的な早さで四国地方の梅雨入りが発表されました。満開の桜もあっという間に散ってしまい、お天気は一体どうなったのでしょうか。

さて、中間考査が終わりホッとしている人も多いと思います。次は期末考査に向けて、勉強に、また、部活動に頑張りましょう。

ところで、5月24日(月)から朝の読書が始まります。各自で本を用意してください。また、図書室に来て自分の読みたい本を探してみてください。



## ★★★★★ 新任の先生方からのオススメ本を紹介します ★★★★★

### (国語科 田所軍兵衛先生)

好みはひとそれぞれであるため、おすすめというものもおこがましいですが、私が好きな作家、津本つもと陽さんよう（平成30年没）の作品を二点紹介します。

#### ☆「深重じんじゅうの海」



筆者の直木賞受賞作。舞台は、幕末の紀州太地村たいじ（現在の和歌山県太地町）。クジラを仕留める「一番ハザシ」を目指す若き鯨漁師くじらの孫才次まごさいじ。孫才次を見守るヒロインのゆき。船団を率い、孫才次を背中で導く頭領である祖父。クジラ漁で生計を立て、江戸時代には富豪も生まれるほど潤っていた太地村は、幕末になり、異変が起こり、これまでにはなかった不幸が度重なる。方言が臨場感を際立たせ、古式捕鯨が明治の文明開化の中で滅びゆく有り様を壮大なスケールで描く。長編小説で少し長めですが、読んだ後には、悲しくも壮大な展開に、大きな満足感が得られる1冊だと思います。

#### ☆「鬼の冠」

大東流合気柔術の創始者、武田惣角たけだそうかくの事績をドラマチックに描く。著者が剣道や居合道を愛好し、作品には「剣豪もの」が多いのですが、素手による武術の奥深さ、武道のロマンを感じさせてくれる1冊です。

どちらも、「新潮文庫」に入っているので、興味がある人はぜひ買って読んでください。

# 朝の読書週間が始まります

令和3年5月24日（月）～5月28日（金）



図書委員会

読書の時間を大切に下さい。  
一冊の本との出会いがあなた  
の生き方を変えてくれることだって  
あります。 （ジョセフ・マーフィー）

朝の読書週間が始まります。朝のひととき、静かに読書に親しみ、落ち着いた穏やかな気持ちで1日をスタートさせましょう。

（お願い）朝の読書は 8：40～8：50 ですが、登校したら本を読み始めましょう。

10分間、好きな本を静かに読み進めます。（ただし、漫画や教科書、参考書はNGです。）

☆ 読みたい本を、必ず用意しておいてください。図書室で借りることもできます。

★読みたい本が図書室で見つからない、話題の本を読みたいなど、本のリクエストがあれば遠慮なく図書室のリクエスト用紙に記入して、図書室にいる教員に渡してください。または、クラスの図書委員に連絡してください。